

リタイア後の元気なシニアに地域での「居場所」と「出番」を創造し提供しているNPO法人「シニアSOHO普及サロン・三鷹」(東京都三鷹市、代表理事・久保律子氏)写真)は、今年で活動17年目を迎える地域とシニアを元気にするコミュニティ・ビジネス型NPOの草分け的な団体だ。

## ①三鷹SOHOシニア〈NPO編〉



シニアSOHO普及サロン・三鷹 (http://www.svsoho.gr.jp/index.html)

1999年発足、会員数145人。総売り上げ年間約1億円。SNSサイトで会員同士のネットワークを構築し、ワーキンググループ形式で三鷹市を中心に事業を行う。2003年度日本経済新聞社、第1回日経地域情報化大賞を受賞。他にも多くの賞を受賞している

■知恵・経験・技術・人脈を地域に生かす  
1999年に三鷹在住の慶応義塾大学のOG・OBが集まり任意団体としてスタートし、翌2000年にNPOとして法人格を取得した。現在、二代目代表理事を務める久保さん(66)は、以前は日本語教師をしていた。01年に会員として入会し、同NPOが行っていたパソコン

事業の一環でホームページ作成の講師を務めた。その後04年に副代表に、翌年に初代代表理事の堀池さんに代わり二代目理事に就任した。

「三鷹市は都心に通う人たちのベッドタウンで、企業を退職

# 一生働く!

オレンジ世代の「生きがい」探し

## 目標は「80歳でもできる事業」

したシニア世代が大勢住んでいました。定年後を暮会所や図書館などで時間をつぶすのではなく、自分たちが今までに培ってきたことを生かして何かしたい、という思いで、まずIT系に強いメンバーでパソコン教室事業を始めたんです。それが当時の通産省の『シニアベンチャー支援事業』を受託し600万円の助成金を得ました」とスタート当時を久保さんは振り返る。

知恵・経験・技術・人脈など多くの宝を持つリタイア・シニアが、地域に戻り、各人の特技を寄せ合いながら、IT事業を中心にさまざまな事業を立ち上げ、着実に実績と売り上げをあげてきた。

現在は、①講座事業(シニアによるシニアのためのパソコン講座。三鷹市産業プラザ内パソコンルームで各種講座を開催)②学校事業(三鷹市内にある小中学校で委託事業を統括)③地域活動(地域貢献を目的として行われる活動を企画実践)の3つの事業を設置し、日々活発に活動中だ。

また、新規案件を獲得するための営業活動、公募事業への応募・各企業などへの提案も行う

「新規事業部」もあり、力を入れている。  
■シニアの「居場所」と「出番」を創る

同NPOの会員数は、現在145人。平均年齢は68歳、最高齢は86歳だという。多様な経験を持つ会員の特徴を聞くと、「ここでは、社長や部長など普通の肩書は要りません。入会したら、ただの会員かマネジャーです。過去にすぎらず、新しいことにチャレンジできる人、他の人とのコミュニケーションを図れる人が活躍しています」(久保さん)。

定年退職する2〜3年前から地域に関わるようにすることも大事であり、企業側にとってもシニアの動向がわかりメリットがあるはずだと久保さんは指摘する。今後も、地域のニーズに合ったさまざまな事業(シンクル・ペアレントへのサポート、商店街向けの英会話講座、カフェ運営など)を検討し、実現に向け精力的に取り組んでいる。目下の目標は、80代でも対応できる事業と子ども対象の事業を考案することだという久保さんのチャレンジは、今後もまだまだ続く。(「オレンジ世代」取材班)